

1 チーム名 (研究対象領域・教科)  
 小学部 自立活動 3

2 メンバー 小学部教員 6名

3 チームのテーマ  
 肢体不自由をもつ児童の実態に合わせた、主体的な動きを引き出す教材の工夫やかかわり合いについて

4 対象児童に願う主体的な姿  
 ○実態把握 (VTR①)  
 ・対象児童 A (小学部1年)  
 ・脳性麻痺。右手に麻痺があり、右手の動きをカバーしながら生活している。前の方に重心がかかりやすく、車椅子でも姿勢が不安定になることが多い。  
 ・少しずつ学校生活に慣れ始めているが、初めての経験も多く、自信がない様子が見られる場面が多い。見通しがもちやすい活動には安心して取り組むことができる。  
 ・身近な教師の動きを見て、「自分もやってみたい。」という思いをもって生活する姿が見られることがある。身近な教師とはやりとりができるが、学級外の教師とかかわることは少ない。

○活動に対する意欲が持続できるような活動時の身体の動きに対する困り感を助ける教材の工夫や自分自身のことに自信をもって取り組むことに繋がるような人とかかわり合いの場面設定などから、児童が達成感や満足感をもち、自分からやってみようとする主体的な姿を増やす。

身体の不自由さ → 自信がない

【年度当初】

自分でできた経験  
先生・友達

⇔ 達成感、自信

⇔ 主体的な姿

【目指す姿】

5 研究実践の内容

(1) 授業場面設定・理由  
 「朝の活動をしよう」  
 ・活動内容が明確である。毎日取り組む活動であるため、Aにとって活動の流れに見通しがもちやすい場面である。  
 ・毎日継続して取り組むことで、A自身が「できた」実感をもつことができ、自信につながりやすい。



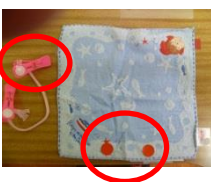
(2) 研究の実際

<児童の目指す姿 (1年間)>  
 朝の活動に自信をもって取り組み、困ったことや終わったことを周りの教師に伝えながら活動することができる。



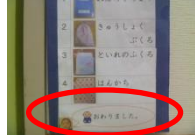
1 学期：近くにいる教師に活動の区切りで終わったことを伝えながら活動することができる。

児童の姿	かかわり・教材の改善	児童の変容 (VTR②)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって活動できるように身近な教師が近くで見守り、活動の区切りで称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情が柔らかくなった。</li> <li>・できたことを伝え、ハイタッチをする様子が見られるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上に物が多く、手を動かすににくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上を整理し、活動しやすいように広いスペースをとる。</li> <li>・入れる物によってかごを変えていたが、かごを1種類にする。</li> <li>・手順表を机の上に置かずに正面に貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上が広がったことで、活動がしやすくなり、短時間で終わらせることができるようになった。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランドセルから荷物を出しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かごの場所を変え、かごの四つ角に滑り止めをつける。</li> <li>・荷物を出しやすいようにランドセルを置く場所や向きを分かりやすく提示する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手の動きに合ったランドセルの向きや場所にすることで、スムーズに荷物をランドセルから出してかごに入れることができるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことや終わったことを伝えることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な教師が近くで見守って伝えやすい状況を作ったり、「てっだってください。」カードや「おわりました。」カードを手元に貼ったりする。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の区切りに教師の「せーの。」という言葉かけがあると、「終わりました。」と言うことができるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい気持ちはあるが、洗濯ばさみでハンカチをはさむことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aがはさみやすい洗濯ばさみにしたり、洗濯ばさみをはさむ場所が分かるようにシールを貼ったりする。</li> <li>・両手の使い方の確認をする。</li> <li>・個別学習の際に指先を使った学習を取り入れる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯ばさみで確実にハンカチをはさむことができるようになった。</li> <li>・ハンカチをはさむ活動が短時間で終わるようになった。</li> </ul>

2学期：朝の活動に見通しをもって進んで取り組み、学級にいる教師に活動の区切りで終わったことを伝えながら活動することができる。

児童の姿	かかわり・教材の改善	児童の変容 (VTR③)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・かごに入れる向きが気になり、直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランドセルから出す順番を変え、手順表で提示する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順番を意識しながら、大きい物から出すことができるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・かごが動いてしまっただけで活動に集中しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かごが動かないようにするために、かごの滑り止めを全面に貼る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かごの位置に気を取られずに活動することができるようになった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が離れた場所にいると終わったことを伝えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の活動の手順表に活動の区切りで終わったことを伝える項目を入れた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が近くにいなくても活動の区切りで、大きな声で「終わりました。」と言うことができるようになった。</li> </ul>

## 6 成果と課題

### 【成果】

- ・自信をもって朝の活動に取り組むことができるようになったことで、学校生活の様々な場面で自信をもって活動できるようになり、自分でできることが増えている。
- ・朝の活動の際に、できたことや困ったことを身近な教師に伝えることができるようになったことで、他の場面でも「終わりました。」「手伝ってください。」などという言葉が聞かれるようになった。
- ・朝の活動に必要な身体の動きを他の時間からもアプローチすることで、姿勢が安定してきており、手を動かしやすくなった。

### 【課題】

- ・身体の動きから1人で行うことが難しい場面が今後も出てくるのが予想されるので、手伝って欲しいことを自分から発信できることが大切である。「手伝ってください。」と言える相手が増えていくように、かかわりの幅を広げていきたい。

